

精神科医の思うこと③⑨

臨床研修医制度

松村 奈奈子

先日、旦那の通院で市民病院についていったら、主治医の先生が「今日は研修医も同席でよろしいでしょうか？」と話され、隣には若い研修医が2人、メモ帳を手に診察室に座っていました。そうそう、私も研修医の時は上司の外来に同席したし、ちょっとベテランになってからは研修医を同席させて診察をしました。我々医師は、大学卒業後に2年間研修をする事になっているのですが、この臨床研修医制度、2004年に大きく変化して、その後も試行錯誤を続けています。私はいい感じに変化したと思っているのですが、いろいろ思う事があるので、今回のテーマは臨床研修医制度。

30年程前、私が研修医の頃は、大学卒業後に国家試験に合格すると、大学病院などでは直接志望する科に就職し、2年間を研修医として過ごす医師が多かったです。ただ、関東を中心に、現在の研修医制度に様に最初の1～2年を内科・外科・小児科・産婦人科など身体管理に必要な主要な科で研修してから、自分の選んだ専門科目に進むというコースもありました。

私は関東の大学だったので、同級生の半分はいくつかの科で研修するコースに行っていました。先輩からも「いきなり精神科で研修医をするより、全身管理ができる医師になってから専門に行く方がいいよ」とアドバイスされていました。

もちろん学生の頃に、全ての科を医学実習という形で1年程をかけてまわります。しかし、しょせん学生なので注射や採血さえもできず、ただただ見学が中心で何もできません。なので、現場での身体的な対応もできる医師になりたいという思いはあり、内科や外科での研修もしたいと思っていました。しかし、就職先の当時の大学病院の上司に相談すると「直接精神科での研修を始めた方が、精神科医としての視点が身に付く」「内科や外科の研修は必要ない」と言われ、私は、就職した大学病院で精神科に所属し、精神科だけを学ぶ研修医としてスタートしました。ただ、いざ医師として仕事が始まると、精神科の患者さんの身体的な急変で救急対応を求められる時もあり、そのつどあたふたとしてしまい、やはり身体的な科での研修は必要だったなあと感じていました。

おそらく、研修医制度を考える偉い先生方も現場での問題を把握され、医師として何を学ばせるべきかを考え2004年に内科・外科・救急と小児科・産婦人科・精神科・地域医療(保健所など)を必修科目とする臨床研修医制度が始まりました。つまり、2年間の決まった初期研修をしないと自分の専門としたい科に進めない事になったのです。

このラインナップを見た時、「ええっ、精神科が必修科目？」と精神科医が驚きました。いやー、もちろん、われわれ精神科医は全ての研修医に精神科の現場を見てもらいたいし、視点の違いを理解してほしい気持ちはあります。ただ、精神科は医療業界の中ではマイナーな感じで、総合病院などでも少数派です。我々の思いが伝わるとは思ってもいませんでした。当時、精神科の同期の食事会でも「いやー、必修になるとは思わなかったね」と盛り上がりました。

しかし、2010年にさらに変更あり、内科と救急と地域医療は必修ですが、外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科はそこから2科選択の選択必修となりました。つまり、精神科は必修ではなくなったのです。その後、2020年にまた変更があり、期間は各科ちよつと異なりますが、内科・外科・救急・小児科・産婦人科・精神科・地域医療が現在は必修科目となっています。精神科は再び必修になりました。精神疾患の増加や医療現場での精神科的視点の大切さを認識された事が、背景にあると言われています。

この制度が始まった2004年、私は総合病院の中のたった1人の精神科医として勤務していました。院長先生が「うちにも研修医がきてくれるよ、よろしく」と嬉しそうに話し、毎年数人の研修医を指導する立場となりました。ただ、当時は精神科の研修は精神科病棟での研修も必須なため、2週間は私の外来についてもらい、その後2週間は連携する別の精神科の病院で研修するというスケジュールでした。

基本は2週間ずっと外来で同席して診察を見学します。さらに、私はできるだけいろんな現場を見せたいと思い、特別支援学校や知的障害者更生相談所の嘱託医もしていたので、支援学校の授業や発達検査の場面、ついでに児童相談所や母子寮(母子生活支援施設)なども見学してもらい、「こんな機会がないと、一生見る事は無い場所だったと思います」と研修医はけっこう喜んでくれました。2週間もずっと診察につくと、思春期の子どもの患者さんもいたので、精神科の患者さんは成育歴や家族背景が症状や治療に大きく影響している事を感じてくれたように思います。最終日が近づくと、自然にひとりひとり研修医自身が自分の家族の事などを話し始め、なんとなく生い立ちを振り返る機会となることも多かったです。

そんな話の中で、ある時やってきた3人組の研修医の事が今でも忘れられません。

3人組、ひとり精神科にやってきてすぐ「自分の父親は病院経営をしていて、僕は跡継ぎなんです」とさわやかに話す坊ちゃん研修医、もうひとはじつと静かに話を聞いている事が多い大人しい女性の研修医、3人目は挨拶をしなかったり、ちよくちよく遅刻したり質問をしてもやる気のない返答をする男性のぶっきらぼう研修医の3人でした。いつも女性の研修医が真

ん中に座り、坊ちゃん研修医とぶっくらぼう研修医は離れて座り、ふたりは会話もしません。ある日、ぶっくらぼう研修医が遅刻した時に、坊ちゃん研修医が「あいつ研修医の飲み会とか誘っても1回も来ないんです」「話しかけても、反応悪いし」とぶっくらぼう研修医を非難します。確かに、なんだか毎日がつまらなそうな、投げやりな感じの研修医でした。私も気になっていて、いつかゆっくり話をしないとイケないかなって思っていました。

2週間の研修も終わりに近づいた頃、早めに外来が終わったので、なんとなくみんなで雑談になりました。坊ちゃん研修医が自分の成育歴や家族事を話し始めました。先週は地方に住む両親が京都で研修する自分に会いに来てくれて、家族でご馳走を食べた話をします。大病院の坊ちゃんとして大事にされてきた人生でした。女性の研修医もゆっくりこれまでの人生を話始め、お嬢様として大事に育てられたんだなあと伝わる内容でした。最後に、ぶっくらぼう研修医がぼつりぼつりと話し始めます。自分は母子家庭で、母親が父親を追い出した後、医師になる事を半ば強制的に決められて、教育を受けてきた事、研修医の給料も一部母親に渡している事を話しました。聞いていた私を含む3人は、『彼が飲み会に参加しない理由』や『医師という仕事に真摯に向かえない理由』を理解しました。“そうか、金銭的にも厳しいし、育ってきた境遇の全く違う同僚とは話もなかなか合うわけもなく、宴会に行かないのか”“医師になる事は自分の意志ではなかったのか”と。そして、坊ちゃん先生を見ると“今まで何も知らずに非難して悪かった”という思いが表情から伝わりました。その後、3人は精神科の病棟のある病院に2週間の研修に行き、どう過ごしているのかなあとちょっぴり気になっていました。

3人組が精神科病院での研修を終えた頃、残業でひとり外来でこもっていると、大人しい女性の研修医がノックして診察室に入ってきました。「先生にお礼が言いたくて」と言います。「精神科の研修が楽しかったので、母親に話したら母親がぜひお礼を持って行きなさいと言うので」と豪華なクッキーの箱を抱えています。そして「あの中の事も、先生に話したくて」と彼女は続けます。ぶっくらぼう研修医が自分の人生を話した後、坊ちゃん研修医とぶっくらぼう研修医は仲良くなって、その後の精神科病院での研修はとっても良い雰囲気だったそうです。研修先の精神科病院の近くに偶然、ぶっくらぼう研修医の離婚したお父さんが住んでいて、食事やカラオケに誘ってもらってとっても楽しかった事を面白そうに話します。近くの工事現場で働いていると思われる作業服姿のお父さんが用意した食事会は、決して豪華ではなかったけど、息子の同僚を一生懸命もてなそうと、いっぱい話しかけてもらって、とっても嬉しかったと彼女は続けます。お父さんは職場の仲間も呼んできて、カラオケではお父さんが軍歌を歌いだし、初めて軍歌を聞き、ぶっくらぼう研修医もこれまで見たことのない笑顔で楽しんでた、という話でした。離婚した父親には母親の反対でなかなか会えなかったと聞いていたので、へんびな場所にある精神科の病院が、そんな再会の場を与えてくれた偶然にもびっくりしました。それは、久しぶりに会う“医師”になった息子を、大切にそして自慢に思う父親の純粋な思いが伝わるとってもいい話でした。そんな事になっていたのか、想像を超えた展開に驚きました。「ほんとうに、あの2人、仲良くなったんですよ」と念を押すように言い、彼女は笑います。寡黙で大人しい研修医でしたが、ちゃんと仲間の心の動きを感じとり、見守っていたんだなあと思

います。そして気になっていた私に、わざわざ報告しに来てくれた事にとても感謝し、この展開に私は感動しました。私はこの3人組の研修医に出会えて、本当によかったと思いました。

臨床研修医制度が変わって、2週間ずっと一緒に過ごし、そこそこ仲良くなって一緒にご飯にいったりと、若い研修医との時間は私にとっても面白かったです。そして、逆にいろんなことを教えてもらったな、と思います。たまたま研修医で来た先生と仲良くなって20年、今でも毎年会っている元研修医もいます。また、研修医がいろんな科で研修するので、研修医が「先生、眼科の先生と話が合うと思いますよ」と眼科や他科の先生と繋いでくれて、病院内でも女子会ネットワークを作ってくれたり、この制度のおかげで病院内に仲良し女医が増えました。研修医が繋いでくれた眼科の先生とは、今では家族ぐるみのお付き合いをしています。

研修医が同席していると、患者さんは緊張して治療的には進まないし、患者さんの症状や経過の説明を研修医にするため、仕事量は増えるしでとっても大変な2週間です。しかし、研修医には精神科の視点での見方を学んでもらい、私も研修医との交流で多くの事を学んだし、多くの人と繋がる事ができました。ほんと、この制度に感謝しています。

ただ、小さな総合病院だったので、ひとりの精神科医が研修医に密に関わる形となりましたが、大学病院などでは複数の精神科医が専門分野別に教育するのでアカデミックでかなり違った感じの研修となります。研修医がいろんなタイプの研修を選べるので、その点もいいと思います。

この臨床研修医制度、もちろん問題点が無いわけではないけれど、ほんと、今後も続いていけばいいなと思っています。